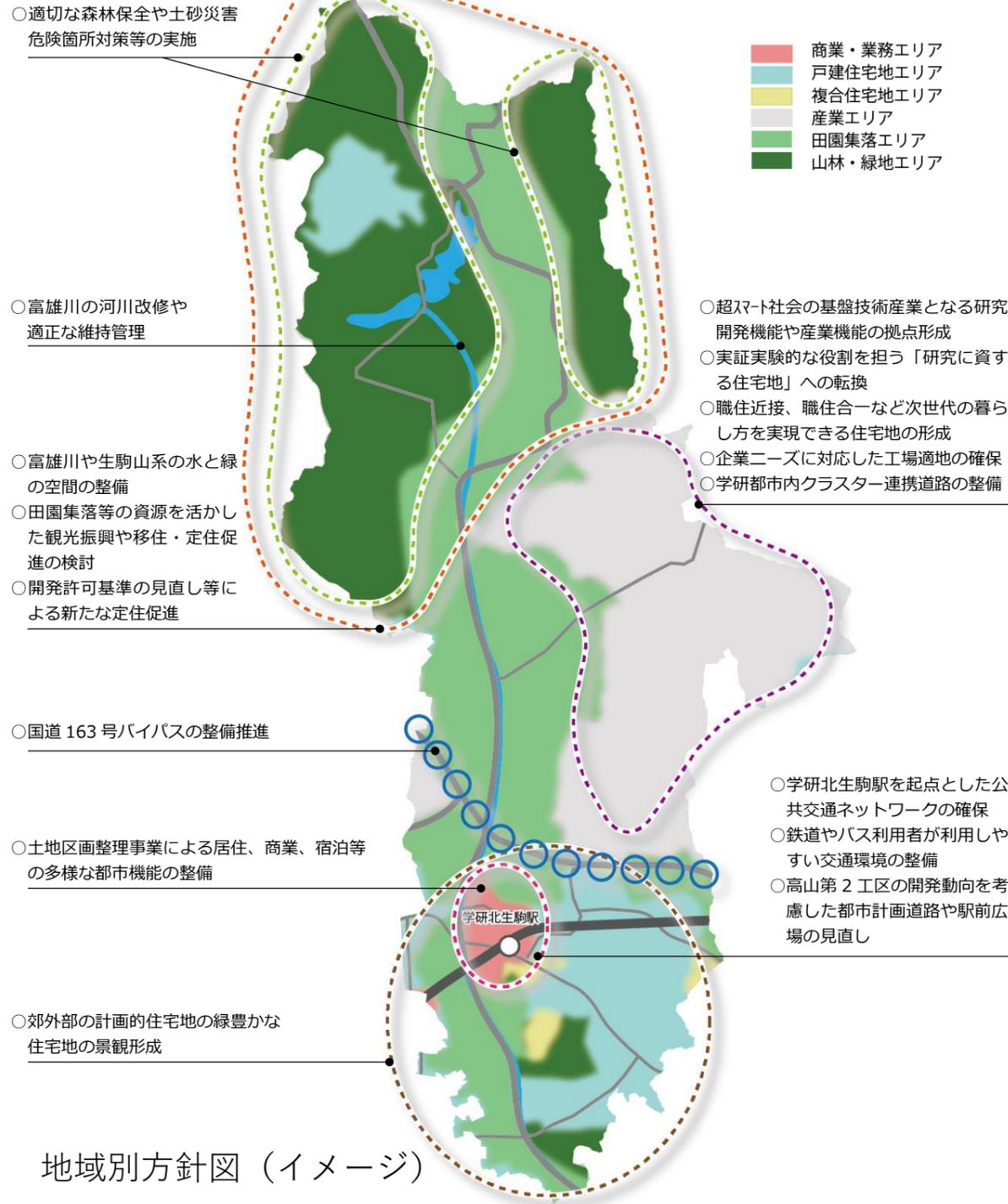


(5)圏域別の方針

〈圏域像〉

(仮) 都市・自然・文化が共生する、.....



地域別方針図 (イメージ)

土地利用方針	
商業・業務エリア(学研北生駒駅周辺地域)	○生活支援機能や交流機能の充実・強化
戸建住宅地エリア(真弓南、真弓、北大和)	○地区計画・生産緑地制度等の活用 ○空き家・空き地の活用 ○用途地域や地区計画の見直し
産業エリア(学研高山地区第2工区)	○学研高山地区第2工区：新たな企業、研究産業施設の誘致に向けた土地利用
田園集落エリア	○農地や田園集落の保全、営農環境や防災面からの保全と利活用 ○古民家や遊休農地等の有効活用
山林・緑地エリア	○地域の水・みどりを構成する貴重な資源の保全

分野別の都市づくり方針	取組方針	取組内容
災害に強い都市(防災)	地山・治水対策の推進	・適切な森林整備や保全、土砂災害危険箇所対策等により、山林における災害防止や土砂災害防止に努め、里山環境等の適切な維持管理を促進します。 ・富雄川の河川改修や適正な維持管理による浸水被害対策を推進します。
	災害への備えの推進と地域のつながりの強化	・防災情報を積極的に発信します。
安心して豊かに暮らすことができる都市(生活像)	職住一体を意識した空間再編	・アフターコロナ、ウィズコロナも見据えた職住一体を意識した住宅地形成を図るため、地区計画等の都市計画手法の活用を検討します。
	住替え支援	・まちなかへの居住誘導(利便性の高い賃貸集合住宅の誘導等)を図ります。 ・高山地区等の旧集落を有する地区における開発許可基準の見直し等による新たな定住促進について、県と連携を図りながら検討します。 ・旧集落における古民家等を用いた定住支援を促進します。
持続的な成長を生む都市(産業)	拠点ごとの特性に応じた機能の充実・強化	・学研北生駒駅中心地区においては、土地区画整理事業による居住機能や商業・業務機能の整備を進めるとともに、高山第2工区につながる北部の玄関口にふさわしい景観形成を図るなど、拠点性の充実・強化を図ります。
	学研高山第2工区のまちづくり推進	・奈良先端科学技術大学をはじめとする様々な公的研究機関の集積を活かし、超スマート社会の基盤技術産業となる研究開発機能や産業機能の拠点形成を図ります。 ・純粋な大規模住宅団地の整備ではなく、実証実験的な役割を担う「研究に資する住宅地」への転換や、職住近接・職住合一をテーマとした次世代の暮らし方を実現できる住宅地の形成を目指します。
	産業集積に向けた土地利用の推進	・産業集積に向けた土地利用の推進を図るため、導入機能を見据えた用途地域の見直しや地区計画による規制誘導、企業ニーズに対応した工業適地の確保等について検討します。
	活力や地域経済活動を支えるネットワークの形成	・国道163号バイパスや学研都市内クラスター連携道路の整備を推進します。
誰もが移動しやすいコンパクトな都市(交通)	道路交通ネットワークの形成	・国道163号バイパスや学研都市内クラスター連携道路の整備を推進します。【再掲】
	地域の移動手段の確保	・地域の交通結節点である学研北生駒駅を起点とした公共交通ネットワークの確保を図るとともに、鉄道やバス利用者が利用しやすい歩道等の交通環境の整備を図ります。
豊かで多様な自然と共生する景観都市(自然的環境)	暮らしの場(住宅地・集落等)の景観形成	・北大和、真弓、真弓南といった大規模住宅地においては、ゆとりと潤いを感じることもできる緑豊かな住宅地の景観形成を図ります。
	良好な田園空間の保全・活用と農業施策との連携	・高山地区など北部に広がる田園集落の構成要素でもある利用されなくなった木造家屋等については、観光振興や移住・定住促進に活用できるよう検討します。
	歴史文化資源の保全・活用／観光・交流まちづくりの推進	・長弓寺等の文化歴史資源やくろんど池、茶釜の里等の観光資源を活かした魅力発信を進めます。
	水辺環境の保全・形成と地域美化の推進	・富雄川や生駒山系が織りなす水と緑の空間整備を図ります。